

ウメ



ウメは、初春に白色や赤色の花をさかせる樹木で、公園や果樹園などに植えられています。花がさくとよいかおりがただよいます。



ウメの(1)は食用とされ、梅干や梅酒などに利用されます。

成長のようす

ウメは(2)です。秋から冬にかけて葉を落とします。(3)ごろ花をさかせ、そのあと葉が出ます。

花のつくり

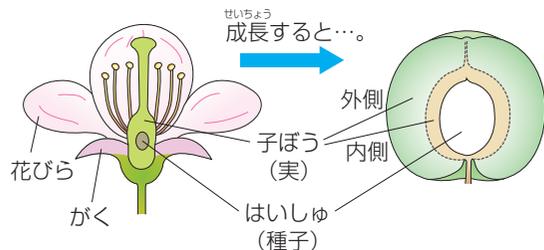
ウメの花は、花びらが1枚1枚分かれる(4)です。サクラやモモなどの花のつくりと似ていますが、ウメの花びらは丸い形をしています。



サクラ・ウメ・モモは花が似た形をしておるが、開花の時期はウメ、モモ、サクラの順に早いんじや。開花時期は入試でもよく問われるぞ。

実のつくり

ウメの実のふだんわたしたちが食べている場所は、子ぼうの外側が成長した部分です。子ぼうの内側が成長した部分は、種子を包むかたいからになっています。



+プラスワン

ウメやモモのように、子ぼうが成長した部分が食用とされるものもありますが、リンゴやイチゴのように、子ぼう以外のものが成長した部分が食用とされるものもあります。

モモ

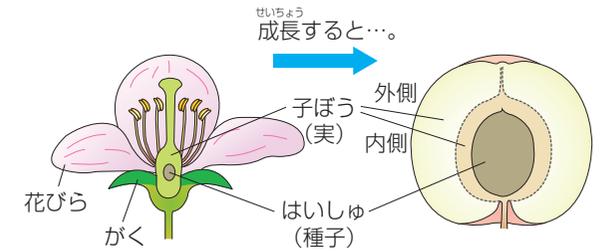


モモは、(5)になるとピンク色の花をさかせる樹木で、公園や果樹園などに植えられています。モモは(6)で、3月～4月ごろに花をさかせたあと、葉が出ます。



また、モモは果物として(7)の部分が食用とされています。モモの実(8)ごろに収穫されます。

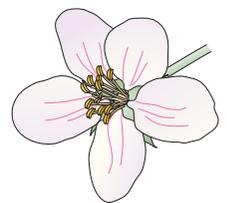
モモの実のふだんわたしたちが食べている場所は、(9)の外側が成長した部分です。子ぼうの内側が成長した部分は、種子を包むかたいからになっています。



リンゴ

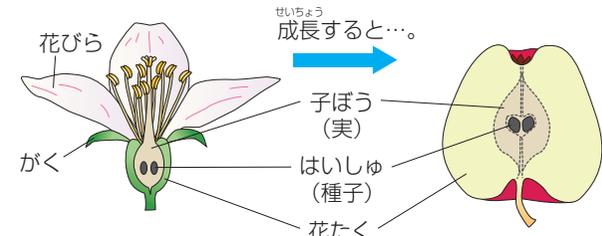


リンゴは、果物として食用とされています。リンゴは(10)で、春になると葉をつけ、そのあと(11)の花をさかせます。実は(12)から(13)に収穫されます(ただしリンゴの実の食用とされる部分は子ぼうが成長したものではありません)。



ナシもリンゴと似たなかまで、(14)の花をさかせます。

リンゴのふだんわたしたちが食べている場所は、(15)という(16)が変形した部分が成長したものです。種子のまわりにあるしんの部分が、(17)が成長したものの(実)です。



イチゴ

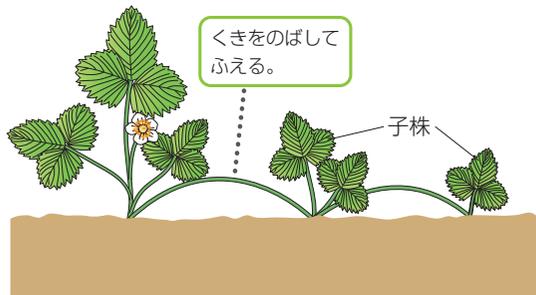


イチゴは、果物として食用とされています（野菜としてあつかうこともあります）。(18)から(19)にかけて収かくされるので、その時期には畑などで花や実が見られます。

成長のようす



イチゴは(20)です。(21)というすがたで冬ごしし、(22)になると白色の花をさかせ、やがて実をつけます（ただしイチゴの実の子ぼうが成長したものではありません）。イチゴはおもに、長い(23)をのばして子株をつくり、ふえます。



+ プラスワン

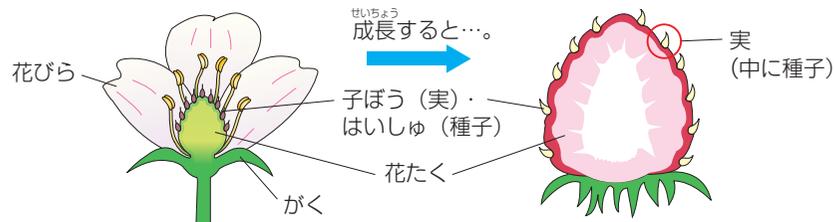
リンゴもイチゴも、花たくが成長したものが食用とされますが、リンゴの花たくはがくより下に、イチゴの花たくはがくより上にあります。

実のつくり



イチゴのふだんわたしたちが食べている場所は、(24)という(25)が変形した部分が成長したものです。

イチゴの花にはたくさんのめしべがあり、めしべ一本に一つの種子ができます。それが、ふだんわたしたちが食べている部分について小さなつづです。



エンドウ (エンドウマメ)



エンドウは、野菜として(26)が食用とされています（グリーンピースとよばれます）。エンドウマメの(27)が食用とされることもあり、キヌサヤといわれます。

おもに冬から夏にかけて、畑などで見られます。

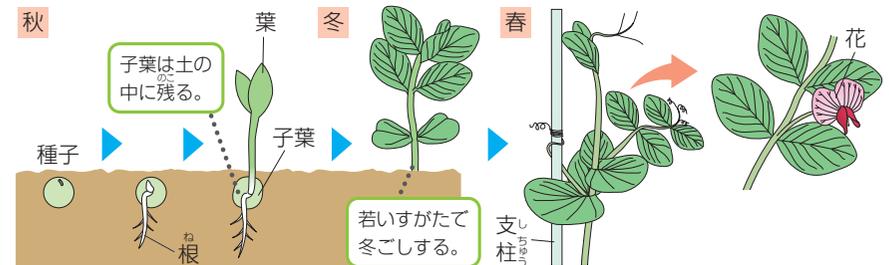


成長のようす



エンドウは(28)です。(29)に種子が発芽し、葉が出て少し成長したすがたで冬ごしします。(30)になるとつるをのばして成長し、花をさかせます。種子をつくと、やがてかれます（一年草として、夏に種子が発芽し、秋に実をつけて冬にはかれる場合もあります）。

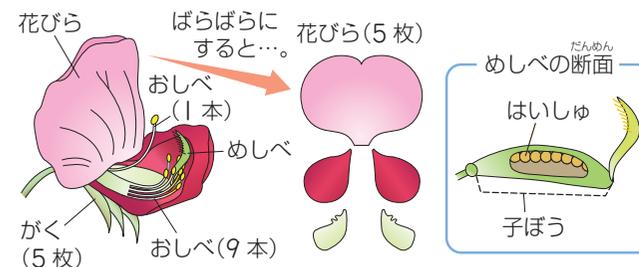
エンドウは発芽するとき子葉が土の外に(31)。



花のつくり



エンドウの花は、花びらが1枚1枚分かれる(32)です。(33)ある花びらには(34)の形があります。



+ プラスワン

エンドウの花には、赤っぽい色のものと、白色のものがあります。